

誰一人取り残さない社会を

社会福祉士 元パラリンピック選手 旭川市民栄誉賞受賞

永瀬 ながせ 充 みつる

公式 LINE



公式 HP



体が不自由になり34年。障害当事者として社会のバリアに直面し、**何度もつらい思い**をしてきました。私は多くの人の支えで、**夢を叶える**ことができました。

しかし、社会には生きづらさを感じる人は多くいて、**声も上げられない人たちがいます**。

夢も目標も持てない絶望を経験し、**不可能と思えた夢を掴む**ことができた**永瀬 充**だからこそ、皆さんの声となり『誰ひとり取り残さない社会を』をつくります。



プロフィール



昭和51年1月23日千葉市生まれ（49歳）幼少期を横浜市で過ごし、5歳で旭川へ **神居小・神居中・旭川凌雲高卒業**
中学・高校ではバスケットボール部所属 高校1年秋に足に違和感を感じ、10万人に一人の神経難病 CIDP の診断を受ける
夢も目標もない19歳の3月にパラリンピックの存在を知り、パラアイスホッケーを始める
パラアイスホッケー日本代表GKとして4度のパラリンピックに出場 **2010年バンクーバー大会では銀メダルを獲得**
仕事歴：障害者作業所利用者・北海道職員・障害者相談支援業務・新聞社でパラスポーツアドバイザーなど
旭川市民栄誉賞・道民栄誉賞受賞(2010) 社会福祉士 中級パラスポーツ指導員
日本青年会議所人間力大賞準グランプリ (2005)